

令和5年度山口トップランナープロジェクト活動報告



第3期生

9名3チーム

実施期間

令和5年7月～2月

第3期 山口トップランナープロジェクト活動報告

この事業は、「山口トップランナープロジェクト」による、山口市の次世代を担うリーダー育成事業です。地元の地域課題に対し、高校生が山口への社会貢献を念頭に、取り組むべきテーマを設定し、新たな価値の提案や、課題解決に向けたプロジェクトを企画・実践しましたのでご報告いたします。

★ 探求を深める3STEP

STEP1 発見する

山口ってどんなまち？
山口の魅力や課題を、ミニセミナーや大人との対話を通して発見するワークショップを実施。

STEP2 実践する

課題解決型学習PBLを実践。フィールドワークを通して問題を認識、課題解決策を考え検証し、提案、ふりかえりまで。

STEP3 発信する

山口県内の高校生が一堂に会し開催される探究活動の報告会「やまぐち探究サミット」へ参加。半年間の学びを振り返りを交え発表。

講師

～message～



黒川 康生 氏

株式会社丸久（人事能力開発部指導）

元防府商工高校教諭で、防府市の地域ブランド「幸せます」を盛り上げた立役者。地域と連携した学校教育や、企業の人材育成に精通。

学力試験では、他者の助けなしに「正解」を導き出す能力が求められますが、社会では、正しい答えにたどり着くことではなく、自ら問題を発見し解決する能力が求められます。これまで学校で身につけた知識を再構築して探究すること、多様な人との関わる経験が自分自身をつくり人生を切り開いていくのです。

メンター

社会人・学生メンターが高校生の探求を伴走支援



高田 隼平 さん
(県庁職員)



山崎 慎太郎 さん
(学芸大学4年)



葛巻 弦喜 さん
(地域おこし協力隊)



後藤 利奈 さん
(山口大学3年)



吉岡 舞桜 さん
(県立大学1年)



内田 朱香 さん
(県立大学1年)

PBLプログラム

湯田温泉地区の賑わい創出をテーマに、2024年完成予定の湯田温泉パークの利活用について、新たな価値の提案を念頭に課題解決に向けたプロジェクトを企画しました。

7月 フィールドワーク

建設中の湯田温泉パーク周辺を散策。観光スポットから路地裏の街並まで、フィールドワークを通して、利便性や交通量、まちの特徴を調査。



8月 問題認識・課題設定

若者を呼び込むために湯田温泉パークが高校生にとってどんな場であるべきかを考え、高校生の抱える問題とは何かを掘り下げていきました。

【高校生の抱える問題】（チーム毎）

- A：多忙で自身と向き合う時間がなさ
- B：知らないことが多く世界が狭い
- C：世代を超えた関りが少ない



夏休み特別講座

若くして起業し、第一線で活躍する人気講師から、将来にわたって活かせる「伝える」スキルを学びました。



大草快貴さん
ピクス株式会社代表取締役

① プレゼン講座

ストーリーとデザインに特化した、人の心を動かす伝え方の基本

② 情報発信講座

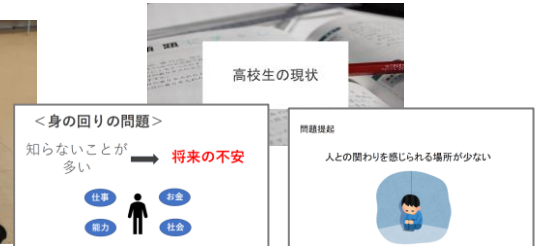
「映え」だけじゃ得られない、共感につながる情報発信の極意



松岡菜々美さん
アドストーリーズ代表

9月 企画の検証・プレゼン資料づくり

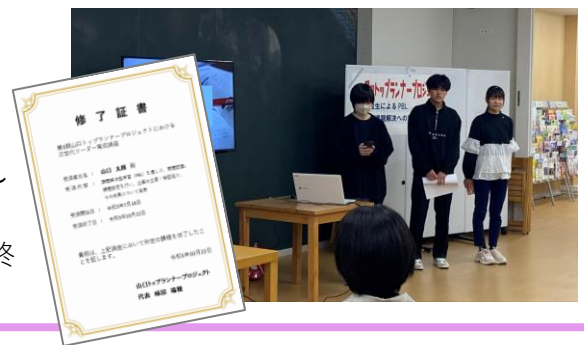
チームごとに、課題解決のアイデア出し、その効果についてまとめ、プレゼン用と配布用の2種類の資料を作成。



10月 成果報告会・終了証授与

各チーム、以下のタイトルで発表

- A：いまを生きる人に～自分と未来に向き合う時間～
 - B：たまりば～自分の世界を広げる、若者たちのサードプレイス～
 - C：“楽しい”を創り出す～湯田温泉を関りで溢れるまちに～
- 講師より総評をいただき、ふりかえりをした後、高校生全員に終了証が手渡されました。



2月「やまぐち探究サミット」出場

代表でAチームが、県内の高校生が集まる探究活動報告会へ出場し、“ピッチ”とよばれる手法で発表しました。

時間に追われ自分と未来に向き合うことができている高校生の実情を問題提起。「未来とは、今の経験を基に展開される」という考えのもとに、若者向けの新しいスタイルの講演会「カンファレンス」を提案。プロダクトとして実施したカンファレンスに自身の感想を加え、その効果について発表を行いました。



左から、久保直香さん／京野あざみさん／阿部遥希さん